

熱中症事故の防止について

1 経緯

このことについて、国及び県からの通知を受け、WBGT（暑さ指数）への注意を喚起する観点から部活動の実施に関する対応の校内指針を定めます。

2 WBGT、観測気温による判断

(1) WBGT25度、観測気温28度を越えた時点

部活動中の生徒は、こまめな水分や塩分を補給し、積極的に休憩を取るなど、熱中症にならないよう厳重に警戒する。

(2) WBGT28度、観測気温31度を越えた時点

部活動中の生徒は、激しい運動など体温が上昇しやすい運動は避け、顧問の指示に従って、熱中症にならないよう活動の中止を含め、厳重に警戒する。

顧問が立ち会っていない部活動はすぐに中止させる。

(3) WBGT31度、観測気温35℃以上

部活動等は原則として中止とする。

3 運用方法

(1) 室内外を問わず、WBGT、観測気温のいずれかで判断する。

(2) 校外等、測定器の無い場所での活動の場合は、環境省熱中症予防情報サイトから観測地点（神戸）のWBGT値で判断することが可能。

(3) 生徒の体調等を考慮し、上記の規準値に満たない場合でも、生徒の安全を第一に判断し、活動中止にすることは可能。

| 気温 (参考) | 暑さ指数 (WBGT) | 熱中症予防運動指針 | |
|------------|----------------|--------------------|--|
| 35℃以上 | 31℃以上 | 運動は原則中止 | WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合は中止すべき。 |
| 31～35℃ | 28～31℃ | 厳重警戒 (激しい運動は中止) | WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休憩をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。 |
| 28～31℃ | 25～28℃ | 警戒 (積極的に休息) | WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。 |
| 24～28℃ | 21～25℃ | 注意 (積極的に水分補給) | WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。 |
| 24℃未満 | 21℃未満 | ほぼ安全 (適宜水分補給) | WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。 |